チームやんじー災害支援プロジェクト　被災地での活動内容

第６陣　　2011/12/7～12/15

【第６陣主メンバー】 敬称略

山口幸雄 山口由里 地元チームやんじー

【被災地の状況】
瓦礫などは、片付いて、数か所にまとめられていた。半壊になったり、崩れそうな家屋は取り壊されて、撤去されているものも多かった。
まだまだ、手つかずの箇所もある。
水に浸かった杉の木などは赤茶けており、切り出されていた。
仮設住宅では、玄関が２重扉に付け足されていた。自治会も出来つつあった。
仮設住宅に入居した人、半壊の家や高台での家で過ごしていた人。個々の事情が浮き彫りになっていた。
仮設住宅では、壁が薄く、隣の声や物音が気になるとの声も。コニュニティハウスの建設もあった。
また、仮設住宅は、物資や暖房器具など重複して届いているが、やはり高台にある家、自活を始めた家は物資があまり届いていない様子。
プレハブで、コンビニや商店を再開しているところもあった。
高台移転についての行政の説明会や話し合いが自治会であったようだ。
漁港は、何箇所か集約されるという発表を県側がしたというニュースもあり、しかし、わかめなど種つけをしたいたり、住民の方々の見えない不安を感じた。

【活動の様子】
被災者の個々の事情の問題が浮き彫りに。

代表の山口が北海道にいる間、地元チームやんじーは、ベースキャンプのテントの管理や掃除、テントの中にある水や食器などを配ってくれた。

UCCコーヒーを200箱。
コーヒー、野菜セット200、米、おもちゃを中心に配布。
主に、山手の高台にある孤立化している世帯や、自活を始めている海辺地区の世帯、老夫婦、子どもがいる世帯を中心に配布した。
いろいろ、ゆっくりお話しする機会もあった。
漁業の町でお茶やコーヒーを集まっては飲む習慣があるらしく、コーヒーは喜ばれた。
また、福島での東電の原発事故のこともあり、北海道からの野菜は安心度があると喜ばれた。
野菜セットは、十勝の農家さんが箱づめした人参、じゃが芋、カボチャセット。ニセコからは、大豆、大根、かぼちゃなど。
【配布した地区】皿貝地区、馬場中山地区、名足地区、細浦地区、平成の森仮設住宅、升沢地区、にらの浜地区

【購入した主なもの】

野菜セット　足りない数の野菜は買い足し。

冬タイヤ　冬道も運転するため。

レスキューキッチンを洗う高圧洗浄機

【活動の写真】

十勝野菜セット

北海道の米

ニセコのじゃが芋

コーヒ200ケース

おもちゃも積み込み

野菜の仕分け

山奥の家へ

高台の避難所だった個人宅へ

おもちゃは子どもたち大喜び